

# 大豆づくり情報

第 1 号

令和 8 年 5 月 22 日  
村山総合支庁  
農業技術普及課

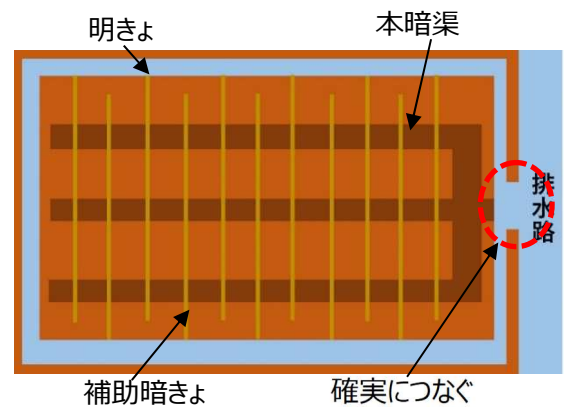
## 排水対策と土づくりを徹底し、収量向上を！

### ポイント① 排水対策は大豆栽培の基本！

明渠は必ず施工し、明渠から排水口まで「水」の流れをすべて繋げる

#### ○圃場周囲に明きよを掘りましょう！

明渠は深さを 30~40cm とし、確実に排水溝につなぎ、排水効果を高めましょう。耕耘時に崩れたり埋まっていないか再度確認を！ほ場内の停滞水が抜けにくいところには排水溝を掘って明きよまで排水させましょう。※右図は排水対策の例です。



### ポイント② 土づくりの実施で地力と pH の向上を！

10 a 当たり投入量の目安 : ようりん 40kg + 苦土石灰 100kg  
牛ふん堆肥 1t、発酵鶏糞 75kg

#### ○大豆の最適 pH は 6.0~6.5 です！

根粒菌の活性と大豆の生育に最適な土壌 pH に矯正するため、積極的に土づくり資材を投入し、不足しがちなカルシウム分を補給しましょう。

#### ○大豆は地力で野菜を穫る作物です！

大豆の収量は土壌の肥沃度が大きく影響します。開花期以降の生育を旺盛に保つため、地力の維持・増強が大事です。

大豆を連作した畑は地力が低下しますので、土づくり資材を投入するとともに、堆肥や発酵鶏ふん等の有機物を継続的に施用しましょう。

### ポイント③ 基肥はリン酸・カリが不足しないよう注意を！

10 a 当たり基肥の目安 : 成分量で窒素 2.5kg、リン酸 7.5kg、カリ 10kg

- 使用する肥料により 3 要素の成分量が異なるため、リン酸やカリが不足する場合は“ようりん”や“PK 化成”等で不足する分を補給してください。
- 有機物供給を兼ねて窒素肥料として発酵鶏ふんを使用する場合、施用量の目安は 10a 当たり 75kg 程度とします（窒素成分 3.5%の場合）。

## ポイント④ 播種適期は5月下旬～6月上旬

- 大豆の増収には、適期内に播種を行い、初期の生育量を確保して、節数や分枝数、着莢数を向上させることが重要です。
- やむをえず播種が遅くなる場合は、播種量を2割程度増やし栽植密度を高め、生育不足をカバーしましょう。

※作業前には、播種機が正常に作動することを点検するとともに、作業中にはホッパーからの種子の減り方が均等かなどを確認し、詰まったりせずにより種子が播かれているかチェックしましょう

### ○砕土率を高めて安定出芽を！

土壤がある程度乾燥した状態でトラクターの速度を落として丁寧に耕起・耕耘を行い、**直径2cm以下の土塊の割合が70%**となるようにしましょう。

### ○一定の播種深度をしっかりと確保！

播種深度が浅すぎると、干ばつ時に種子が乾燥して出芽が遅れることがあります。**播種深度が3cm程度**となるように、覆土深を調整しましょう。ほ場が乾燥している場合には、播種深度をやや深め（5cm程度）としましょう。播種後は適切な鎮圧を行いましょう。種子と土壤が密着することが重要です。

### ○種子予措で病害虫の防除を！

ネキリムシの成虫は広葉雑草に産卵することから、早めの耕耘作業やほ場周辺の除草対策を徹底しましょう。また、種子への薬剤処理等で、出芽時の食害と紫斑病を防ぎましょう。

## ポイント⑤ 除草剤は効果的に使用しましょう！

砕土率70%で除草効果を高め、播種後に早めの散布を！

- 砕土不良では除草効果が劣るので、前述のとおり砕土を丁寧に行います。
- 薬量が足りないと効果が劣ります。使用量の範囲内で、十分な薬量を散布しましょう。
- ほ場が乾燥している場合は、希釈水量をやや多めに、ゆっくりと散布しましょう。
- 散布する際は、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう注意しましょう。

### ○難防除雑草対策

帰化アサガオ類（マルバルコウ、マメアサガオ、マルバアメリカアサガオなど）は4月中旬頃から10月上旬まで、だらだらと発生し、8月中に出芽したものは結実します。つる化すると防除は困難になり、ほ場にまん延すると収量が大きく減少します。畦畔などのほ場周辺で発生を確認したら、直ちに抜き取り、ほ場への侵入を防ぎましょう。



マルバルコウ



マメアサガオ



マルバアメリカアサガオ

※ 写真は農研機構「帰化アサガオ類まん延防止対策マニュアル」より引用

## 春季農作業事故防止啓発運動 展開中 4月10日～6月10日

あせらず、気もまず、無理はせず！みんなで声を掛け合い、農作業事故をなくしましょう！  
こまめに“休憩”、こまめに“水分補給”で「熱中症」を防止しましょう！